

在南ア日本大使館
領事がつづる

南アフリカ通信

Vol. 28

文◎新保 剛



2010年のワールドカップ開幕まで、あと135日。
開催国の南アのことをよく知らない人も多いだろう。
現地在住の日本大使館領事から届くこのコラムで
生の南アフリカを見て、知って、本大会に備えよう！

アフリカの人々が好きなスポーツの筆頭はサッカーだ。だから、1月8日にアフリカ選手権に出場するトゴ代表が武装勢力に襲撃された事件は衝撃的だった。サッカーを攻撃すると大衆の反感を買うから、テロリストはサッカーを狙わないと一般に信じられていた。だからこそ、ワールドカップ(W杯)南アフリカ組織委員会に取材が殺到し、ダニール・ジョーダン会長は「アンゴラは南アの隣国ですらない。W杯開催に問題はない」と躍起になって否定した。犯人は冷徹にサッカー選手を狙ったようだ。襲撃場所は国境から約10キロの路上。国境で入国手続きをする選手団を確認し、入国係官の目が届かない地点で待ち伏せて機関銃の一斉射撃。選手たちはバスの座席の下にもぐりこんで身を隠したというが、さらに多くの死者が出てもおかしくなかった。開催国のアンゴラは南アの隣国ではないが、遠くもない。日本と中国くらいの距離だ。この国では独立に14年、その後の内戦でさら

●「テロの脅威にも直面したアフリカ」●



▲非難に参列するアデバヨルら。
政情不安の恐れはない南アでは
テロの心配は必要ないという

に27年間、戦争状態にあったが、8年前ようやく終わった。平和の証としてアフリカ選手権の開催にこぎつけたが、事件のあったカビンダ州は飛び地で、石油が出ることもあり、分離独立を叫ぶ武装勢力が残っていた。それにしても、なぜトゴはバスを使ったのだろう。他国のチームはアンゴラ当局の助言を受けて飛行機で移動している。おまけに、キャンプ地は隣国のコンゴ共和国。こちらも内戦が断続的に続いている国で、同様に治安が悪い。派遣費用を節約したかったのかもしれないが、そうであれば高くついたものだ。チームにはマンチエスタ・Cに所属するエマニエル・アデバヨルを始め、欧州リーグに所属する有名選手が何名もいるが、選手個人と、母国の小さなサッカー協会の財布は別なのだ。テロ事件は世界のどこでも発生し得る。9・11事件や地下鉄サリン事件を思い出してほしい。悪意があれば、平和な場所でも悲劇の光景はつくられる。国際テロ組織アルカイダがW杯を狙っているかもしれないとの報道が当地でもなされているが、南ア当局は実際にテロが発生する可能性は低いと見ている。ただ安心は禁物。テロよりも強盗に遭う確率が高いので、南ア滞在中は十分注意が必要なのは変わりがない。

著者プロフィール ● 一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップに向け、日本人旅行者に安全情報を発信する

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp> 在南アフリカ日本国大使館 http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html